

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700441
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ保内
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内1-324
自己評価作成日	平成26年7月18日（月）

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、利用者の様子、施設内外で過ごす様子など施設新聞を発行し家族さんに送っている。 ・庭には四季折々の野菜や花がありテラスに出れば観賞したり収穫できたりする。 ・重度化し普通浴が困難になっても安全で快適なリフト浴で対応できる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>建物は、各ユニットと併設サービスが中庭を囲む造りで、2ユニットそれぞれに玄関がある。中庭には、皆で話をしている畑をはじめ、ご家族が植えたブルーベリーの木や利用者がご自宅から移植して育てているバラや菊等、たくさんの植物があり、利用者や職員は毎朝、その場所でラジオ体操をされている。調査訪問時、居間では、ご家族が持参した日本のお城を紹介するDVDを皆で鑑賞したり、仲良し数名でお話して過ごされていた。昼食後には、お気に入りの窓際のソファに横になり、日課の昼寝をしている方もみられた。</p> <p>買い物等、少人数での外出は、事業所の軽自動車を利用し、遠出には、併設サービスの大型車を土・日曜日に利用して、皆で外出を楽しめるよう支援されている。四季折々に、お花見や秋桜、チューリップ等、ドライブがてら花の鑑賞に出かけ、周辺を散策したり、外食することもある。「ドライブが大好き」な方が数名おられ、希望があれば気軽に度々出かけるように支援されている。ドラッグストアに定期的に買い物に行き、こだわりの栄養ドリンクを購入したり、仏壇にお供えするお菓子を買いに行くことも支援されている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ保内

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)
氏名 篠原 初美

評価完了日 26年 7月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を大きな目標として理解はしているが、すべてのスタッフがそれを共有し実践に繋げているとは言えないかもしれない。	
			(外部評価) 「地域 家族 ホーム間における相互のふれあいを大切に、笑顔あふれるその人らしい生活を支援する」と事業所理念をつくっており、各ユニットの玄関に掲示されている。管理者は、利用者に、「時間に縛られず、思うように過ごしていただきたい」と考えておられ、職員には、「利用者の気持ちを受け入れて支援する」ことを意識して取り組むよう話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流は十分に出来ていないが、地域でのクリーン運動、防災訓練、夏行事などがあると、利用者とスタッフで地域の交流に努めている。	
			(外部評価) 地域行事は、回覧板で確認したり、地域の方が教えてくれて、夏祭りや盆踊りに毎年参加されている。夏祭りでは、民生委員の方が出店の無料券を届けてくれ、利用者は、ゲームやお餅拾いに参加したり、かき氷を食べる等して楽しまれた。年2回、地域の清掃活動があり、利用者と職員数名で参加して、事業所周辺の草引きやゴミ拾いをされている。川之石高校や宇和の特別支援学校高等部から職場体験や見学を受け入れている。職場体験に続けて参加した生徒は、利用者と馴染みの関係ができて、卒業後に、介護職員として勤務されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して現在の入居状況を報告し認知症の人の理解に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議でアドバイスや意見を頂いたらスタッフに周知しサービスの向上に努めようとしている。	
			(外部評価) 今年度の会議は、いろいろな方に参加いただけるよう曜日や時間を毎回替えて開催されている。敬老会・家族会を兼ねて会議を開催した際には、17名のご家族の参加があり、全員でラジオ体操をしたり、ティータイムの時間も設けられた。年度初めの会議では、入居状況や前年度の行事報告・今年度の予定を発表された。会議では、「事故報告・防止対策」「防災訓練」「学術研究発表」等、毎回テーマを決めて報告し、意見交換されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や連絡会議等で事業所の様子や活動内容、事業所内での問題点を話し合っている。また、介護請求や提出書類等に関する問い合わせ相談をして協力関係を築いている。	
			(外部評価) 市の保健センターの担当者、地域包括支援センターの方が、運営推進会議に参加されている。定期的に相談員の訪問があり、その方を通じて、地域の老人クラブの会長を紹介していただき、「地域の高齢者が事業所のラジオ体操にも参加できるよう呼びかけてみたい」と話しておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「拘束をしないケア」は職員全員が理解しており、帰宅願望の強い時は一緒に外にでて納得されるまで関わったり、廊下の大きな窓は共有場所から死角になり転落の危険性があり、施錠しているが出来限りの拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 玄関は施錠しておらず、出入りすると、チャイムが鳴るようになっていいる。居間と居室はL字型につながっており、目が行き届かないこともあるため、転倒が心配な方には、センサーマットを使用したり、ご本人とご家族に了承を得て職員が見守りしやすいように居室を移動してもらい対応されている。夜間はドアをすかして、音等で動きを把握したり、必要時に、利用者が職員を呼べるよう枕元に鈴を用意しているケースもある。トイレトーパーパーやペーパータオルを居室に持ち帰る利用者には、職員で話し合っってトイレや洗面所に利用者ご本人用のタオルを用意して対応されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が理解している。学ぶ機会はなかなか取れていないのが現状。だが、利用者の大きな不穏があるとスタッフで検討会議をし解決方法を話し虐待に繋がらないよう統一したケアに取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域密着連絡会議で成年後見制度について学ぶ機会があったが現在、入居者で活用している方がいないため身近に受け止めるのが難しいかもしれない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時はもちろんの事不安や疑問などが残らないように尋ねたり、改定時には家族へ説明し納得されてから同意書を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時は家族さんと情報交換のチャンスだと思い意見や要望を収集したり毎月の請求書への一筆状を通し積極的にご家族の意見や要望を聞き入れ職員が運営に反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 毎月発行している事業所便り「ブルーベリー」に加え、利用者個々の担当職員が、日々の暮らしぶりや体調について書いた手紙をご家族に送付されている。ご家族の来訪時には、お話しした内容を業務日誌に記入して、職員で共有されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 時間のあるときは、職員がいつでも意見や相談が出来るように関わっているが全てが反映出来る訳でもなく、それでも出来るだけ提案や意見の受け入れに努めている。	
			(外部評価) 毎月、事業所全体の「スタッフ会」、ユニット毎の「ユニット会」を行い、業務のことや研修の報告、利用者のケアについて話し合われている。職員は、法人医療機関で実施している「院内学会」に参加して事例発表をしたり、法人全体で設けている委員会に参加し意見を出す機会もある。職員は、「安全対策委員会」で、手すりを増やしてもらえるようお願いしてみたい」と話しておられた。手芸の得意な職員が手作りしたチリメン細工の作品が、利用者個々の居室の入り口に飾ってあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に2回の人事考課での面接には出来るだけ長く時間をとりやりがいや向上心を持って勤務できるよう耳を傾け個々の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内外の研修案内は必ず回覧し希望者の確保に努めている。推薦する研修があれば事前に職員に薦めることもしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 8月より法人内で総合研修の予定があり、参加者が活動を通じてサービスの質を向上につながればと思う。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前面接を通し要望や意見を聞き、また入居後の生活ケアの中で出来るだけ本人の不安や要望を聞き安心に繋げる努力をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の家族の施設見学や面談時に意見や要望を聞き職員で周知した上でサービスを開始をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス計画書を作成し、説明と納得のうえ了解して頂き職員が意識した支援を行えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活において本人が行える事柄を見出し職員と一緒に行動するように努めている。が、その時々本人の気持ちに対する配慮を示し強制はしていない。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 不穏になる利用者の家族には、ありのままの状況を一度は伝え電話で利用者には話をしてもらったり面会を大切に居室で過ごしてもらったりして家族の絆を大切にしながら本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や友人、親戚等の面会は職員が歓迎し受け入れしている。本人の希望があれば住み慣れた我が家や町並みをドライブし大切にしてきた関係が途切れないようにしている。 (外部評価) 毎日、午前中に家族が来られて、居室で一緒に過ごすことが習慣になっている方がおられる。時にご家族の方は、ご自分用のお弁当を持参して、居間で昼食をともにされることもある。信仰心の厚い方は、仲間の協力を得て以前のように集会に出かける等されている。昔住んでいた地域周辺をご本人の道案内で、ドライブするような機会も作っておられる。調査訪問日は、お盆の時期でもあり、ご自宅に帰って県外から帰省しているご家族と過ごしている方もあった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のトラブルを発見した際には職員が相談にのる事を双方に知らせて傾聴している。お互い双方の気持ちを知れるように仲介に入ることもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後の関係はほとんど無くなってしまいが、家族さんが、時折来所されることもあり、その時には近況等を聞くことも出来る。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や家族から聞いた事や、日々の観察により職員が知れた事はスタッフ会で情報交換し、希望や意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望は、センター方式のアセスメントシートを用いて情報収集に取り組まれている。新たに知り得たことは、赤字で追記し、毎年更新をされている。利用者に希望等をお聞きすると「なんちゃない」と言う方もおられ、職員は思いを引き出す難しさを感じているが、利用者の発した言葉を日々の介護記録に詳細に記入したり、ご家族の話を業務日誌に記入し、職員間で共有することで意向の把握に努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者に寄り添って出来るだけ話題を引き出し生活歴や現在の生活などの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の様子や発語等をありのままに記録にのこし、いつでも生活の様子がわかるように心がけている。また、主治医、連携ナースからのアドバイスや指示を頂き心身状態の把握にも努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人、家族はもちろんの事、連携ナースからのアドバイスも取り入れ、現状に即した介護計画の作成に努めている。</p> <p>(外部評価) ご家族、ご本人から聞き取りした希望をもとに、職員間で話し合い介護計画を作成されている。昔、山仕事をしていた方で「このまま元気に暮らしたい」と希望されている方は、積極的に手を動かしたり、手すりにつかまって足上げや屈伸運動しており、計算ドリルも熱心に取り組まれており、職員はアドバイスしたり、安全に行えるよう準備や見守りをされている。現在、介護計画は、毎月モニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直すようになっている。</p>	<p>今年度、計画作成担当者が法人から異動して来られ、今後はユニット間で協力し合って介護計画作成の仕組み等について検討したいと考えておられた。現状に即したより具体的な計画を作成して、支援に取り組んでいきたいと話しておられた。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の記録には、利用者の様子が把握できるよう、職員が感じたことや思った事なども書き入れ赤線で引き、職員がわかり易いように工夫もしている。介護記録やヒヤリハットの記録からも介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者それぞれ家族関係の状況も違い、その時々生まれるニーズに対応し職員間で共有しながら取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個々の地域資源の協働は難しい。が、少しでも施設の事を理解して頂くよう運営推進会議などで外部の方への協働に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 契約時に説明をし、主治医、医療連携の同意書を理解のうえで頂いている。家族の希望もあれば主治医から説明してもらい納得を得ての受診が出来るよう支援している。</p> <p>(外部評価) 現在、利用者は全員が24時間対応が可能な協力医療機関で往診を受けている。調査訪問時、協力医が往診に来られ、職員や利用者は、医師を囲んでおしゃべりをされていた。歯科は、訪問歯科を利用できるよう支援されている。医療連携している訪問看護師は、週に1回来られて利用者の健康管理をされている。利用者の体調が優れないような時には、電話で相談できるようになっており、又、気にかけて連絡をくださることが、職員の不安軽減につながっている。正確な服薬支援を行うために、薬の種類や数量、名前のチェックを3回行うこと等の助言があり、実践されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 連携ナースが主治医への橋渡の役割を含め日々の利用者への気づきや様子観察で個々の適切な受診が受けられるよう支援している。24時間体制での連絡も可能。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時は医療機関の医療連携室との情報交換で家族の意向や希望を聞き、スムーズかつ、早急に退院が出来るような関係作りに努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族の希望で看取りの意向が出れば、早急に主治医、連携ナース、家族、職員間で話し合いの場を作り、事業所での支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 今年度は、2名の方の看取りを支援された。おひとりの利用者は、体調変化時にご家族に意向確認したところ、「延命も点滴もしない。ここにおらしてもらえたら」と希望があり、方針を共有して支援された。もうおひとりについては、ご家族が毎日様子を見に来られ、食事介助をしたり身体を拭く等して、協力し合って看取られた。主治医の指示のもと連携看護師から助言があったり、又、夜間に気にかけて訪問してくれることもあり、職員は心強く感じておられた。他利用者は心配もされていたが、あたたかく見守ってくれて、亡くなった際には、「お疲れ様でした」と利用者になをかける様子もみられたようだ。後日の法人院内学会では、事業所で行った看取り支援について報告された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応や救命救急の研修は、定期的に職員に参加して実践力を身に付けるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地区の役員の方々には運営推進会議を通して報告とお願いはしているがこの地区は高齢の独居の方が多く協力体制が難しい部分がある。津波時の非難訓練も予定している。	
			(外部評価) 昨年11月の運営推進会議時には、消防署の立ち会いのもと、併設デイサービスと合同で、日中の火災想定避難訓練を実施された。会議参加者には、職員が利用者全員を避難誘導の様子を見学していただき、訓練後に皆で意見交換された。消防署からは、「寝ている方を毛布で引っ張りながら避難する訓練も取り入れてみては」とアドバイスがあった。6月には、地域で実施された津波時の避難訓練に利用者、職員数名が参加して、消防署の指示のもと、実際に近くの山の高台まで、車いすを使用して避難することに取り組まれた。今年11月にも、津波時の訓練が実施される予定となり、管理者は「今度は利用者全員で参加したい」と話しておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーを損なわないように努めている。夜間の利用者の不穏時の対応もスタッフ会で検討し利用者の尊厳確保と言葉掛けにも注意したケアに努めている。	職員の利用者への対応や言葉かけは、事業所の質にも大きくかわることでもあり、これからも、事業所の気付きを大切にして工夫ある取り組みを重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 利用者のほとんどが女性で、行動や心もち等から「昔ながらの女性の気質」がうかがえることが多いようで、たとえば、男性利用者が居間のテレビで野球観戦したい時には、女性利用者が自然にチャンネルを譲るような場面も見られるようだ。入居間もない利用者が他利用者とはトラブルになることもあるが、職員はその時々利用者の思いや関係性を見守りながら支援されている。職員の利用者への対応について、時に声かけが感情的になったり、急かすような対応等が見られるようだが、施設長は、スタッフ会にて、全員に注意を呼びかけたり、個人的に話をして外部研修を受講する機会等も作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望を聞いてはいるが、スタッフの人数の関係もあり自己決定を優先出来ないときもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日をどのように過ごしたいか毎日希望は聞いてはいるが、その都度、どうしたいのか本人の希望を聞いて対応するよう心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の服装も好き嫌いが明確にされる人もいるが、自己決定に乏しい方も、服装の汚れなどあれば更衣しいつも清潔に心がけている。散髪も定期的に行っており自分の好みなど、要望通りに支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な、下ごしらえは手伝って頂いたり、調理の味見、お盆拭き、おしぼり干しなども自ら積極的にして頂くことも多い。	
			(外部評価) 法人の6つのグループホームが、順番に2ヶ月毎に献立を立てており、B棟では、その献立をもとにして職員が食事作りされている。A棟では、ここ数ヶ月の間、お試し期間として、業者から朝・夕食の配食を頼んでおり、昼食のみ職員が手作りしている。「ケアに多くの時間を採れるように」と、配食を利用されているが、利用者、職員から、「手作り」を望む声が多く、今後、手作りに戻すことを検討されている。職員は、利用者の間に座り、介助をしたり、会話をしながら同じものを食べておられた。事業所の畑で収穫した枝豆が食卓に上っており、「枝からちぎってくれたんですね」と、職員が利用者にお礼を言っておられた。午後のおやつの中には、利用者が昔から食べ親しんでいる「かんころ」を紫芋で手作りして、皆でお茶の時間を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量は個々の違いがあるので、一人ひとりにあった量を提供している。水分の少なめの方には声掛けし出来るだけ飲用して頂けるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯の洗浄に努め、口腔ケアは毎食後に必ず行っているが、時々口腔ケアの拒否もあるが、時間をずらしては声掛けし支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンは、把握できている。介助が必要な方は時間を確認しながら誘導して、出来るだけオムツの使用数を軽減できるよう支援している。	
			(外部評価) ユニットごとに3ヶ所トイレがあり、利用者によっては、ご本人が使いやすいトイレを決めて使用しておられる。病院を退院後に入居となった方や、入居中に入院して退院された時にはオムツを使用している状態の場合が多いが、事業所ではなるべく紙パンツやパッド等を使用しながら、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫にも気をつけているが、便秘の慢性化の方は主治医に報告し、指示を頂いて出来るだけ快便を保てるよう支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の声掛けをするも拒否があれば、時間をずらして再度声かけしたり、入浴の時間も個々に合わせた対応をしている。便汚染などがあると清潔を優先し入浴の支援をしている。	
			(外部評価) 基本的に午前中、週3回を目安に湯船につかって入浴できるよう支援されている。シャンプーやボディシャンプーは、ご家族が用意したり、買い物時に購入してご自分用のものを使用されている。入居前は、お風呂を嫌がって入浴できなかった利用者には、入居後は、お好きなコーヒーを楽しんだ後等、気分が良い時を見計らって誘う等、工夫しながら入浴につながるよう支援されている。立位保持の難しい方は、併設デイサービスのリフト浴を使用して支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自立している方には、希望通りに休息して頂き、介助が必要な方には、希望されたら居室で休息して頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日常生活に変化が観られる場合は主治医に報告し、服薬チェックして頂き状態に応じた指示がもらえる。副作用においては職員全員が把握は出来ないと思う。薬の辞典で解説出来るようにはしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 嗜好品の買い物や、ドライブの希望などがあれば気分転換に職員と出かけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の人とのお出かけはなかなか実践できていないが季節に応じて季節感を味わって頂けるよう行事レク等で支援している。地域のボランティアさんから応援の声掛けも頂いている。 (外部評価) 買い物等、少人数での外出は、事業所の軽自動車を利用し、遠出には、併設デイサービスの大型車を土・日曜日に利用して、皆で外出を楽しめるよう支援されている。四季折々に、お花見や秋桜、チューリップ等、ドライブがてら花の鑑賞に出かけ、周辺を散策したり、外食することもある。「ドライブが大好き」な方が数名おられ、希望があれば気軽に度々出かけるように支援されている。ドラッグストアに定期的に買い物に行き、こだわりの栄養ドリンクを購入したり、仏壇にお供えするお菓子を買いに行くことも支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物などは、施設の立て替え金を利用している方が殆どでお金を所持している方は家族にかける電話代の小銭位の金額が多い。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族への電話は公衆電話を利用して頂き、希望があれば随時話をして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 食堂や居室、玄関等には季節感のある空間作りをしている。中庭から季節ごとの鳥や虫の鳴き声も耳に入り利用者が気づくことも多い。</p> <p>(外部評価) 建物は、各ユニットと併設デイサービスが中庭を囲む造りで、2ユニットそれぞれに玄関がある。中庭には、皆で世話をしている畑をはじめ、ご家族が植えたブルーベリーの木や利用者のご自宅から移植して育てているバラや菊等、たくさんの植物があり、利用者と職員は毎朝、その場所でラジオ体操をされている。調査訪問時、居間では、ご家族が持参した日本のお城を紹介するDVDを皆で鑑賞したり、仲良し数名でお話して過ごされていた。昼食後には、お気に入りの窓際のソファに横になり、日課の昼寝をしている方もみられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 一人で休息されたい時は各部屋でくつろいで頂いたり、気のあった利用者同士でソファに座って昔の馴染みの話をされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 各居室への持込みは利用者と家族で話されて置かれたり、使い慣れたものを運んだりされている。</p> <p>(外部評価) 各居室のドアには、見やすい位置に大きく名前を書いて貼ってあった。居室のベッドとタンスは備え付けになっている。仏壇を置いている方は、ご自分でお茶を供えて手を合わせておられる。届いた手紙や趣味の作品を飾ったり、日めくりカレンダーをかけて毎日めくる方もおられる。園芸の得意な方は、ご自分の居室の窓の外に網を張り、朝顔のツルをはわせるようにして世話しており、花が咲くのを楽しみにされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 手すりや介助バーの不足な部分は早急に取り付けし、居室の戸の開閉がスムーズになるよう確認したり、利用者が安全な生活が送れるよう努めている。</p>	